

ともかく停戦を

七年ほど前、私はウクライナとの国境まであと六十^キの場所にある、ポーランドのザモシチという街を訪れたことがある。

ウクライナ、ベラルーシと国境を接するルブリン県にあり、人口は六万人ほど。当時のメモを見返すと、ワルシャワから県都のルブリンまで鉄道で二時間半、そこからバスで一時間半かかったとある。遠かった覚えがあるが、逆にいえば公共交通を使つて約四時間で、首都ワルシャワからウクライナとの国境近くへたどり着くのである。

ザモシチは一五八〇年、ルネサンス・理想都市の思想をもとにして計画された（五稜郭のような）星形をした色鮮やかな美しい街である。旧市街地はほぼ当時の原型を留めており、世界遺産でもある。

その街を建設したのは、ポーランド＝リトアニア共和国の大貴族であったヤン・ザモイスキ。ユダヤ人に寛容で、当時、多くのユダヤ人が居住していたとされ、同時代のシナゴーク（ユダヤ教の会堂）も残っている。地理的にもバルト海からウクライナを経て黒海へと至る際の要所であった。

しかし近代に入り、十九世紀にはロシア領となり、第二次世界大戦ではドイツ軍の激しい攻撃を受けた。さらに近隣に、ナチスドイツによるユダヤ人虐殺の舞台となる巨大なマイタネク強制収容所が建設される。ユダヤ人に寛容だった場所に、ナチスドイツは強制収容所をつくったのである。

私は専門家ではないので、中東欧の詳細な歴史はわからない。だが、ウクライナからわずかな距離にあるポーランドのこの街を訪れることで、西欧と東欧のはざまで揺れ動いてきた、この地区の歴史の複雑さを感じたのだった。しかし私が訪れた際は、緩やかな丘陵地帯の中にある、美しく、穏やかな場所であった。

二十一世紀のいま、この街のすぐ隣のウクライナで凄惨な戦いが始まるなど、全く考えていなかった。軍事で解決するものなど何もない、というのが歴史から学ぶことではないのか。なぜ、という問いは止まらないが、何よりもまず停戦に至ってほしい。

（静岡文化芸術大学教授）